

令和元年5月24日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2018

課題番号：15K03806

研究課題名（和文）グローバル会計人養成のための国際会計教育方法の構築

研究課題名（英文）Development of International Accounting Education for Global Accounting Profession

研究代表者

菅原 智（SUGAHARA, Satoshi）

関西学院大学・商学部・教授

研究者番号：40331839

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、原則主義アプローチを採用した国際財務報告基準(IFRS)の下で、グローバル会計人に必須である専門的判断力や対応力を養成するための国際会計教育のフレームワークを明確化し、求められる教育プログラムを開発することを目的として実施した。第1に、会計教育にアクティブラーニングを用いた新しいアプローチを取り入れるための教材開発を行った。具体的には、LEGOを活用した会計教育の教材である。これは、シミュレーションゲームで、ゲームベーストレーニングに分類される学習教材である。第2に、当該LEGOゲームを実際に実施し、受講生達の学習に関する効果測定を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

経済活性化の原動力として競争力のあるグローバル会計人育成は日本でも重要な課題であるが、特に会計教育の分野で論点となるのは、判断力や問題解決能力などを有する人材開発である。なぜなら原則主義アプローチの下では、詳細な基準が無い状況において、会計専門家としての職業的判断が適切に行使され、且つ、それが世界の会計士が通常行うグローバル水準を満たした判断であることが求められるからである。本研究では、様々な研究アプローチを駆使し、国内外のIFRS教育や専門的判断力を養成する教育と効果を調査し、結論として、日本の社会に適合した教育方法で、且つ、グローバル社会に求められる会計人の育成方法を構築し提案する。

研究成果の概要（英文）：This study aims to develop a theoretical framework of international accounting education for accounting professions. We also attempt to develop innovative educational materials and programs that allow us to give appropriate trainings to global accounting professions who have sufficient judgement skills and higher cognitive thinking skills. Our primary research outcomes are as follows. First, we successfully developed an innovative accounting teaching material that adopt LEGO simulation game as an active learning approach. Second, using this LEGO teaching material, we also conduct quasi-experiential research to assess the effectiveness of this new teaching pedagogy.

研究分野：会計教育

キーワード：会計教育 アクティブラーニング 専門的判断力 文化的差異 ゲームベースドラ  
国際会計教育基準 経験学習

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

昨今の国際化が進む経済社会においては、高い資質を有しグローバルに活躍できる職業会計士を育成するための会計教育の重要性が指摘されてきている。例えばアメリカでは、2012年7月アメリカ会計学会とアメリカ会計士協会が共同で「Charting a National Strategy for the Next Generation of Accountants」と題する報告書を公表し、グローバル会計人育成とそのための高等教育機関における会計教育の在り方に関する戦略的勧告が示された。また過去10年においては、国際会計士連盟と国際会計教育基準審議会が国際会計教育基準(IES)を作成・公表し、高品質水準のスキルや技能を有する会計士を世界のどの国でも育成できるよう、世界各国の会計教育の統一を図る動きも加速しつつある。IESが目指すのも、高品質なグローバル会計人育成である。

上記のように、経済活性化の原動力として競争力のあるグローバル会計人育成は諸外国においても重要な課題となっているが、特に会計教育の分野で論点となるのは、判断力や問題解決能力などのジェネリック・スキル(Generic Skills)を有する人材の開発である。なぜなら、原則主義アプローチを採用する国際財務報告基準(IFRS)の下では、詳細な基準が無い状況において、会計専門家としての職業的判断が適切に行使され、しかもそれが世界の会計士が通常行うグローバル水準を満たした判断であることが求められるからである。

ところが、上記の要請を達成するためには大きな課題が2つ指摘される。第1の課題は、会計教育の現場では、会計研究者/教育者が独自の様々な方法でIFRS会計教育を遂行しているが、そのような会計教育の現状が包括的に把握されているとは言い難いという点である。これは同時に、各研究者/教育者の意図に基づき選択適用される会計教育方法は、判断力を育成するために有効なものであるか否かについて、これまで何ら検証されてきていないということもできる。第2の課題は、原則主義に基づく専門家の判断について、IFRSのような単一の会計基準が必ずしも単一の会計実務(すなわち判断結果)を導くとは言えないことが先行研究によって実証されつつあるという点である。具体的には、会計専門家の判断は文化的要因、価値観、職業観などの様々な要因に大きく左右されると言われている(Han et al., 2010)。例えば、IFRSの明文上にある不確実性を含む表現の解釈や判断は、保守主義や守秘義務に対する各国経営者や会計士の文化的差異によって、異なる解釈が行われていることが実証されている。このような判断力を対象とした研究は、日本では、角ヶ谷・菅原・Chand(2014)によるリース会計基準に関する会計士の専門的判断を対象とした研究が存在するが、これ以外にはこれまで実施されていない。

### 2. 研究の目的

本研究は、原則主義アプローチを採用した国際財務報告基準(IFRS)の下で、グローバル会計人に必須である専門的判断力を養成するための国際会計教育のフレームワークを明確化し、求められる教育プログラムを開発することを目的とする。経済活性化の原動力として競争力のあるグローバル会計人育成は日本でも重要な課題であるが、特に会計教育の分野で論点となるのは、判断力や問題解決能力などを有する人材開発である。なぜなら原則主義アプローチの下では、詳細な基準が無い状況において、会計専門家としての職業的判断が適切に行使され、且つ、それが世界の会計士が通常行うグローバル水準を満たした判断であることが求められるからである。本研究では、様々な研究アプローチ(質的および量的データ分析の混合アプローチ)を駆使し、国内外のIFRS教育や専門的判断力を養成する教育と効果を調査し、結論として、日本の社会に適合した教育方法で、且つ、グローバル社会に求められる会計人の育成方法を構築し提案する。

### 3. 研究の方法

- (1) 先行研究の収集と整理、各国のIFRS教育および判断力を育む会計人教育の文献調査およびフィールドワークを実施した。
- (2) 会計教育者と会計学生へのインタビューを実施し、そこから理論生成と問題点の導出を試みた。
- (3) 生成した理論に対して量的研究による追証研究を行った。
- (4) 国内外の職業会計士に対する質問票を利用した実験研究を実施し、判断力に影響を及ぼす文化的要因やその他の諸要因を特定し、それらの会計教育への影響を解明した。
- (5) 国内外で実施されているアクティブ・ラーニング、問題発見・解決型学習法(PBL)などの革新的な教育方法を調査、効果測定した。
- (6) 最終的な研究成果の編纂と公表を行った。

### 4. 研究成果

上記の研究の方法に従って、以下では研究成果について述べる。(1)と(2)については、第1に、文献研究の整理を行う上で、各国の会計教育に携わる大学教員に対するインタビューを実施するための質問票を作成した。第2に、作成したインタビューのための質問票を利用して、ヨーロッパ諸国(イタリア、スペイン、フランス)の大学でインタビューを行った。データの分析により、アクティブ・ラーニングを利用した会計教育教材としては、ケース・スタディが中心であったが、中には、ビジネスゲームやビデオゲームなどを利用したケースが存在するこ

とも明らかとなった。

(3)については、理論構築することは先の研究プロセスで実現できなかったため、既存の経験学習理論 (Matsuo, 2016) を用い、日本で実際に利用されているアクティブ・ラーニング教材の Management Game (MG) を対象として、実証研究を行った。MG に参加する参加者よりデータを収集して、帰納的テーマ分析を実施し、経験学習の理論が量的または質的にもゲームを用いた学習環境で成り立ちうるかを検証した。検証の結果は、Matsuo (2016) が提唱する 5 つの要素の全てが成功している MG の元には存在することを証明することができた (主な発表論文の 3), 5) )

(4)については、名古屋大学の角ヶ谷典幸教授と共に専門的判断力に関する研究を実施した (主な発表論文の 6), 9), 13) など) 。本研究期間内には、日本国内の職業会計士を対象とした研究しか実施できなかったが、諸外国のデータを用いた先行研究の比較を行うことで、当初の予定していた国内外の会計士の判断力の比較検討を補完的に行うことができた。結果は、文化的要因や社会的圧力により、会計士の判断は大きく影響を受けることを統計的に証明することができた。

(5)国内外で実施されているアクティブ・ラーニングなど革新的な教育方法の調査と効果測定についても、本研究期間内に実施することができた(主な発表論文の 4), 8), 11) などがある) 。会計体操の経験者や、アクティブ・ラーニングを応用した授業の受講生を対象として、準実験研究を行い、当該各アクティブ・ラーニング教材を用いた授業により学生の会計学習に対する態度が統計的に改善し、さらにその変化が将来の職業会計士の志望と相関関係があることを突き止めた。

(6)については、下記の主な発表論文等に記載している通り、随時、学会報告や雑誌論文を発表することで、研究成果の編纂と公表を行なってきた。なお、上記(5)については、より長期的でかつ国際比較研究を実施するため、2019 年度に採択された国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (A)) で引き続き研究を継続することを予定している。

## 5 . 主な発表論文等

[雑誌論文](計 14 件)

- 1) 菅原智・角ヶ谷典幸「日本の中小企業における自発的開示-テーマ分析による質的研究-」会計制度のパラダイムシフト：経済社会が与える影響，河崎照行編著，2019，第 12 章，pp.193-213, (査読無)
- 2) 菅原智「経済のグローバル化が及ぼす会計への影響と会計教育の役割」商学論究 (関西学院大学商学研究会)，66 巻 4 号，2019，p.471-490, (査読無)
- 3) Sugahara, S., Motivation to Adopt Game-Based Learning (GBL) for Employee Training and Development: A Case Study, 2018 *Journal of Entrepreneurship Education*, Vol.21, Issue 4, 2018 (<https://www.abacademies.org/journals/journal-of-entrepreneurship-education-home.html>) , (査読有)
- 4) Sugahara, S. and Dellaportas, S., Bring active learning into the accounting classroom, *Meditari Accountancy Research*, Vol.26, No.4, 2018, pp.576-597, (査読有)
- 5) 菅原智「経験学習としてのゲーム・ベースド・ラーニング (GBL) の効果：マネジメント・ゲーム™ (MG) のケース・スタディ」産業経理, 78 巻 1 号, 2018, pp.100-113, (査読無)
- 6) Tsunogaya N., Chand, P. and Sugahara, S., The Impact of Social Influence Pressures, Commitment, and Personality on Judgements by Auditors: Evidence from Japan, *Journal of International Accounting Research*, Vol.16, No.3, 2017, pp.17-34, (査読有)
- 7) Sugahara, S., Accounting Education in Japan, *The Routledge Handbook of Accounting in Asia*, 2017, pp.221-233, (査読有)
- 8) 菅原智・菅尾尚代・政岡孝宏「会計体操の学習動機に与える影響に関する研究」会計教育研究, 第 4 号, 2016, pp.12-23, (査読無)
- 9) Tsunogaya, N. and S. Sugahara, Judgments of auditors on “principles” versus “guidance” in lease accounting standard: Evidence from Japan, *Asian Review of Accounting*, Vol.24, No.3, 2016, pp.362-386, (査読有)
- 10) Sugahara, S. & Watty, K., Global convergence of accounting education: an exploratory study of the perceptions of accounting academics in Australia and Japan, *Asian Review of Accounting*, Vol.24, No.3, 2016, pp.254-273, (査読有)
- 11) Sugahara, S., Sugao, H. , Dellaportas, S., Masaoka, T., The effect of body-movement teaching, learning motivation and performance, *Meditari Accountancy Research*, Vol.24, No.3, 2016, pp.414-437, (査読有)
- 12) 菅原智・姫艶彦「日本の中小企業会計の自主選択適用に関する税理士の意識調査」会計, 第 190 巻第 2 号, 2016, pp.222-236, (査読無)

- 13) 菅原智・角ヶ谷典幸「日本の中小企業会計と税理士の専門的判断」修道商学, 第55巻第1, 2015, pp.29-46, (査読無)
- 14) 菅原智「原則主義アプローチの採用からみた今後の会計教育研究の展望」會計, 第187巻第5号, 2015, pp.24-36, (査読無)

〔学会発表〕(計8件)

- 1) 菅原智「経済のグローバル化と会計教育上のコンフリクト」国際会計研究学会第35回研究大会、統一論題報告、中部大学、愛知県, 2018年9月9日
- 2) Sugahara, S. 「The Effect of Game Based Learning (GBL) as the experiential learning tool for business training」Accounting and Financial Association of Australia and New Zealand, Accounting Education Special Interest Group, 2018, Auckland, NZ, 2018年6月30日
- 3) Sugahara, S. 「The Effect of Game Based Learning (GBL) as the experiential learning tool for business training: A Case Study of Management Game」British Accounting and Finance Association, Accounting Education Special Interest Group, 2018, Brighton, UK, 2018年5月3日
- 4) Sugahara, S. 「A thematic analysis of the voluntary disclosure for SME accounting in Japan」American Accounting Association Annual Meeting 2017, San Diego, USA, 2017年8月9日
- 5) Sugahara, S. 「An Empirical Evidence of the Voluntary Disclosure for the SMEs Accounting in Japan: Professional Tax Accountants' Perspective」Meditari Accountancy Research Conference 2016, Johannesburg, South Africa, 2016年6月30日
- 6) Sugahara, S. 「Bring Active Learning into the Accounting Classroom」Meditari Accountancy Research European Conference 2015, Forli, Italy, 2015年7月3日
- 7) Sugahara, S. 「Cultural Influence on Accountant's Judgment for SMEs Accounting: Further Analysis」The 20<sup>th</sup> International Euro-Asia Research Conference, Bochum, Germany, 2015年5月
- 8) Sugahara, S. 「Cultural Influence on Accountant's Judgment for SMEs Accounting」European Accounting Association (EAA), 2015 Annual Congress, Glasgow, UK, 2015年4月

〔図書〕(計1件)

Satoshi Sugahara, Nabyla Daidj, and Sumitaka Ushio, Value Creation in Management Accounting and Strategic management: An Integrated Approach, Innovation, Entrepreneurship, Management Series, Willy, 2017, (Chapter 5-7)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。